

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和元年10月 8日 (火)

2 確認箇所

- ・伐採木一時保管エリアH
- ・1 / 2号機共用排気筒 (免震重要棟付近から確認)

3 確認項目

- (1) 伐採木一時保管エリアHの状況
- (2) 1 / 2号機共用排気筒の解体工事の進捗状況

4 確認結果の概要

(1) 伐採木一時保管エリアHの状況について

震災後、福島第一原子力発電所構内の敷地造成等によって発生した伐採木は屋外の伐採木一時保管エリア等で保管・管理されている。

伐採木の保管にあたっては、微生物による伐採木の分解・発酵に伴う火災のリスクを低減させるため、積み上げ高さの制限 (5 m未満) や内部温度の監視等の管理が行われていることから、伐採木一時保管エリアHの現況を確認した。

なお、当該エリアは傾斜地を挟んで東側と西側のエリアに分かれており、東側エリアには木材及び伐採木 (幹、抜根)、西側エリアには伐採木 (幹、抜根) が保管されていた。(図1、2)

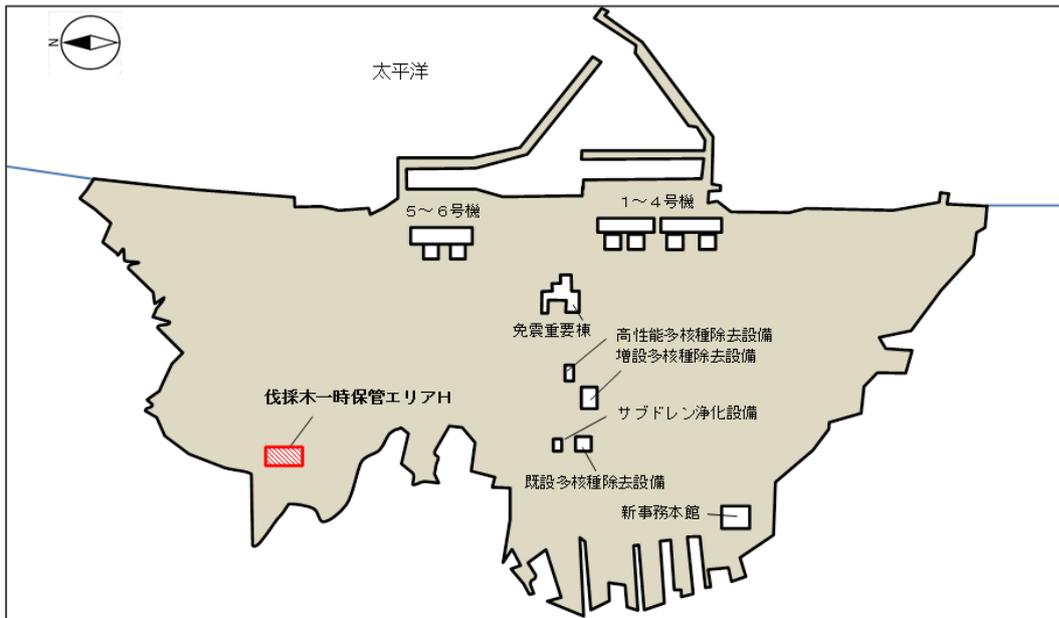
○東側エリアの状況

- ・火災対策として、積み上げ高さが5 m未満に管理できるように高さ確認用のポールが設置されており、伐採木の積み上げ高さは5 m未満を満足した状態で保管されていた。(写真1)
- ・エリア東側 (道路沿い) には延焼防止対策として砕石を敷き詰めた防火帯が設置されており、複数器の消火用タンクが設置されていた。(写真2)
- ・エリア北側には消火器が2台設置されていた。(写真3)
- ・伐採木が雑草に覆われている箇所や伐採木の腐食が見受けられた。(写真4)

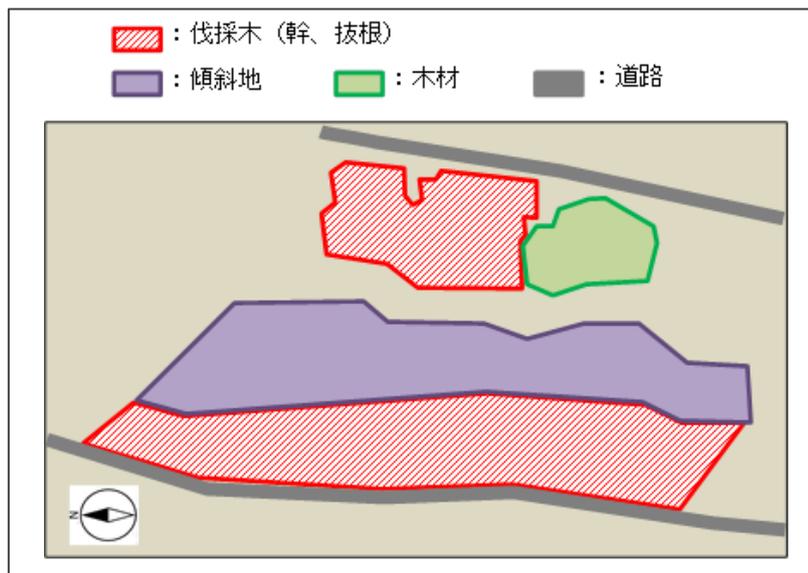
○西側エリアの状況

- ・東側エリアと同様に高さ確認用のポールが設置されており、伐採木の積み上げ高さは5 m未満を満足した状態で保管されていた。(写真5)

- ・積み上げた伐採木の内部温度を確認する温度計が複数設置されており、確認した範囲では温度は20℃前後であり、異常は見受けられなかった。（写真6）
- ・エリア北側には消火器が2台設置されていた。（写真7）
- ・東側エリアと同様に伐採木の腐食が見受けられた。（写真8）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(図2) 伐採木一時保管エリアH詳細図

○東側エリア



(写真 1)



(写真 2 - 1)



(写真 2 - 2)
消火用タンク



(写真 3)



(写真4)

○西側エリア



(写真5)



(写真6-1)

積み上げられた伐採木の内部まで単管パイプが挿入されており、単管パイプにセンサを通し、内部の温度を測定していた。



(写真6-2)

温度計指示値 (約20°C)



(写真7)



(写真8)

(2) 1 / 2号機共用排気筒の解体工事の進捗状況について

1 / 2号機共用排気筒の解体工事については、10月7日から3ブロック目の解体工事が開始されていることから状況を確認した。

- ・11時45分頃には、解体装置が排気筒頂部に吊り上げられていたが、12時15分頃に現場を確認した際には、解体装置が排気筒頂部から外されていた。(写真9)
- ・東京電力によると、10時22分に3ブロック目の筒身50%までの切断が完了したことから、11時53分から解体装置を吊り下ろし、12時28分に解体装置が地上の架台に着座したとのことであった。
- ・今後、台風19号の対策として、クレーンブームを伏せる準備を進めるとのことであった。



(写真9-1)

排気筒頂部の状況
(11時45分頃撮影)



(写真 9 - 2)
排気筒頂部の状況
(12時15分頃撮影)

- 5 プラント関連パラメータ確認
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。